



## 小林 裕和 (小林 ひろかず)

9月5日生まれ、新潟県出身。

2002年、『リコピン』で第51回新人コミック大賞佳作受賞。

2004年、『ダマスカラス』（少年サンデーR増刊掲載）でデビュー。

2010年、少年サンデー25巻より『戦国八咫鳥』を連載。

### ■とにかく手を抜かない。

——マンガ家を目指すようになったきっかけを教えてください。

小学生の頃に教室でイラスト描いていたら、クラスみんなが褒めてくれたんです。それが最初のきっかけだと思います。

——初めて描いた作品はどのような作品でしたか？

これも小学生の頃になりますが、ノートに描いていたドラゴンボールやドラゴンクエストをそっくり真似したような作品だったと思います。でも、どの作品も完結する事ができませんでした（笑）。

——一番影響を受けた、または印象に残っている作品を教えてください。

一番影響を受けた作品は、「俺達のフィールド」や「仮面ライダーSPIRITS」の村枝賢一先生が手掛けた全作品です。あとは少年ジャンプです。

——マンガを描かれるに当たって、作品に活かされている先生の実体験などがありますか？

日常の事ではないですが、マンガ家のアシスタントを経験した事ですね。今自分が作家として活動している上で、とても活かされている体験だったと思います。

——日常生活の中で楽しみにしていることや趣味を教えてください。

ドラマや映画を見たり、マンガや小説を読む事が好きです。楽しみにしている事はマンガ雑誌の発売日ですかね。

——作品を作るにあたって、最も気を付けていることは何ですか？

とにかく手を抜かない事です。妥協せずに取り組むように常に心がけています。

## ■「斬り合う」のではなく「撃ち合う」戦国マンガを読んでみたくて

——今回先生が手掛けた「戦国八咫鳥」ですが、読み切りでの作品も同じく雑賀孫一（雑賀衆）を中心とした物語でした。雑賀孫一（雑賀衆）に焦点をおいた物語にしようと思ったきっかけを教えてください。

戦国マンガの殆どは刀などで斬り合う作品じゃないですか。銃を撃ち合う、いわゆる「ガンアクション」をメインにした作品はマンガで目にする事がないので、読んでみると面白そうだなと思い、物語の構想を練りました。最初のきっかけはそういう感じだったと思います。

——「戦国八咫鳥」（八咫鳥）を手掛けるにあたって、日本史について色々勉強されたと思います。歴史では孫一と信長は対立関係にあったと記されているものが多いようですが、この二人を結びつけようと思ったきっかけがあれば教えてください。

二人を結びつけたのは、「かつての友との戦い」「目的達成の為の理想と現実の対立」という展開を考えていたからです。作品では描かれていないですが、孫一と信長は最終話のあと、見解の相違で歴史どおりに対立するということまで構想をしていました。ですが、対立した事は歴史でも述べられているので、そこへ向かうまでの二人の関係性を描く事にしました。

——主人公・雑賀孫一は実在の人物であります、先生の思う孫一の人物像を聞かせて下さい。

孫一のイメージは、“本人は好き勝手やっているだけなのに自然と人が集まってくる不思議な人”というキャラです。皆さんの周りにもそんな感じの人がいるかもしれませんが、孫一はまさにそんな人物ですね。

——戦国時代が舞台のストーリーですが、先生自身、過去に日本で起こった戦をどのようにとらえ、読者にどういった事を感じてほしいとお考えで作品作りをされましたか？戦国マンガなので、歴史的な意味や当時の様子などについて考える方も少なくないと思いますが、戦っている彼等を見て、「自分も頑張ろう・戦おう」と思ってもらえると嬉しいです。



©小林裕和/小学館

## ■「最初は描きたいものを描く事が大事」

—— 作家活動を続けていくにあたって、大事にしていこうと思う事を教えて下さい。

「初心と健康」ですね。毎回限られた時間の中で作品を完成させなければいけませんから、体調を崩して人に迷惑をかける事はしないように心掛けています。

—— これからマンガ家を目指す方へアドバイスはありますか？

まずは描きたいものを描く事だと思います。「話を面白くするにはどうすればいいか」を考えるのは後からでも良いので、まずは描きたいと思ったものを形にしてみてください。

—— 最後に読者へのメッセージをお願いします。

現在、次回作に向けて鋭意構想中です。早く皆さんに読んでもらえるよう頑張りますので、紙面で見かけましたら応援ヨロシクお願いします。